

## もの言う牧師のエッセー 第353話

## サッカーW杯小話

### ③ 「本田は偽善者？」

ベルギー戦で負けた後、日本の選手たちがロッカールームを掃除して、彼らが引き上げた後に部屋を訪れた FIFA の運営スタッフのプリシラさんは、「これは、ベルギー戦に敗北した後の日本代表のロッカールームです。スタジアムでファンに感謝し、ベンチもロッカーも全てを掃除して、メディアに話した。ロシア語で『ありがとう』というメモまで残して。まさに全てのチームのお手本！日本を迎えられて光栄！」などとツイッターに写真付きで投稿。ツイッターは瞬く間に拡散し世界中で大絶賛された。W杯日本代表DF 槇野智章選手によれば、「実は本田選手が最初に『ロッカーをきれいにしよう』と発言して、みんなでやるようにしたんです。」

そんな本田選手は帰国後、「少額ですが、毎月10万円を1年間寄付しようと思います」と表明。すると、彼のアカウントに「そこは不言実行にして欲しかった。」などと彼が善行を見せびらかしたとでも言いたげなコメントが。これに対して本田は、「いや、あなたにも寄付してもらいたいという意図で発言してるんですよ」と返答。“偽善者”とする声に対しても「偽善者でもいいので一緒に困ってる人を助けましょう！」と即答し、一緒に寄付活動をしようと呼びかけ、その結果、多くの賛同者の返信が届いた。当然である。いつの時代も何もしない輩に限ってイチャモンをつけるが、これはゴスペルに関しても全く同様だ。

イエスの弟子パウロは仕事ができ目立つゆえによく文句を言われたが、

**「他の人たちは純真な動機からではなく、党派心をもって、キリストを宣べ伝えており、投獄されている私をさらに苦しめるつもりなのです。すると、どういうことになりますか。つまり、見せかけであろうとも、真実であろうとも、あらゆるしかたで、キリストが宣べ伝えられているのであって、このことを私は喜んでいきます。そうです、今からも喜ぶことでしょう。」**

**ピリピ人への手紙 1章 17-18節、**

などかえって喜びをあらわにしている。要点は「他者を助けること」の実践であり、困っている人の役に立つことである。キリストも多くの人を助けたが、周りからはいつもアレコレ言われ、おまけに殺されてしまった。しかしそれで終わりではない。彼が復活したように、正しい者には勝利が来る。むしろ迫害や無理解は祝福なのだ。

